

第2回脳血管疾患対策部会

No.	該当箇所	頁	意見の概要	意見に対する考え方
1	第4章 各施策における個別課題と取組	13	脳梗塞を起こす心房細動が高齢者に極めて大きなリスクとなっていることや具体的な啓発の中身など、県民の方が読んだ時に分かるよう、書き方の工夫をお願いしたい。	循環器病の予防や正しい知識の普及啓発の「取り組むべき施策」で心房細動について、とりわけ高齢者の生命を脅かすことや、心房細動から脳梗塞への罹患を予防するための抗凝固療法等の紹介など、より具体的な啓発について記載しました。
2	第4章 各施策における個別課題と取組	13	当初、心房細動の記載自体が抜けていたことから、もう少し循環器として一体化して考えることが必要。県民が読むものなので治療法のことは書きにくいのはあると思うが、健診で心房細動に注意することや、血圧管理や抗凝固療法といったことなど、もう少し具体性があってもよい。	
3	第4章 各施策における個別課題と取組	13	健康診断で心電図を使っているの、健診率をもっと上げていけば、心房細動の新たな患者がピックアップできる可能性が高まる。	循環器病の予防や正しい知識の普及系啓発の「取り組むべき施策」で一般健診の受診率向上や心房細動に関する予防啓発に努める旨を記載しました。
4	第4章 各施策における個別課題と取組	25	脳神経内科医にしても脳神経外科医にしても主たる診療科の医師を増やすことを考えないといけない。	循環器病に係る急性期医療提供体制の構築の「取り組むべき施策」で専攻医の確保や地域間での医師偏在解消つうえで、働き方改革をふまえる旨を記載しました。
5	第4章 各施策における個別課題と取組	25	脳卒中に携わる医師を政策誘導的に増やす施策を三重県が行ってくるとありがたい。働き方改革への対応も医師が増えないとできないので、二次医療圏を越えた連携など、三重県全体で考えていく必要がある。	循環器病に係る急性期医療提供体制の構築の「取り組むべき施策」で働き方改革について記載しました。また、6ページでは圏域を越えたより広域的な連携について記載しています。
6	第4章 各施策における個別課題と取組	29	リハビリテーションに関するコメディカルの数は、全国に比べてかなり少なく、何かしらの改善が必要である。	リハビリテーション等の取組の充実の「取り組むべき施策」でリハビリテーション等の専門職の育成促進について記載しました。
7	第4章 各施策における個別課題と取組	38	「在宅生活に復帰した患者の割合」は、治療と仕事の両立や就労支援とは関係ないような印象を受ける。	「在宅等生活に復帰した患者の割合」に関する表の掲載箇所を「治療と仕事の両立支援・就労支援」から「循環器病の後遺症を有する者に対する支援」に変更しました。

No.	該当箇所	頁	ご意見	ご意見に対する考え方
8	第4章 各施策における個別課題と取組	38	ロジックモデルのアウトカムである健康寿命の延伸を考えると、脳卒中のインパクトが大きい。何度も発症を繰り返して、復帰率も悪く、寝たきりになっていくということが一番大きな問題なので、それを改善するのがこの計画の目的である。	循環器病の後遺症を有する者に対する支援「現状・課題」で、脳血管疾患の在宅等生活の場に復帰した患者の割合に関する表を掲載しました。
9	第4章 各施策における個別課題と取組	40	行政として一個一個書けないのは分かるが遺伝性疾患について一言記載があるといい。小児期より、むしろ20代・30代の脳卒中の方がボリュームとしてはずっと大きく、健康寿命の延伸に影響するので、その点を配慮いただきたい。 若年性脳梗塞はもうすこし年齢が高いところにボリュームがあって、心房細動、先天性疾患、あるいは特殊な血栓を起こすような疾患などがたくさんある。現在の書きぶりだとほとんどが小児脳卒中だけのような印象を受ける。	小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策「現状・課題」で遺伝性疾患について記載しました。また「取り組むべき施策」では小児期、成人移行期、成人期にかけて必要な医療を切れ目なく受けることができるよう、医療体制を充実する旨を記載しました。
10	第5章 計画の進捗管理	44 ～ 49	覚知から搬送までの時間を反映しないと、結局搬送時間が長ければ長いほどt-PAや血栓回収の適用にならない。 脳卒中の発症者数が減っているようには思わない。受療率ではなくて、できれば発症数をアウトカムにして、それを減らすようにする必要がある。	救急要請（覚知）から医療機関への収容までに要した平均時間や、推計患者数を指標としてロジックモデルに記載しました。

第2回心疾患対策部会

No.	該当箇所	頁	ご意見	ご意見に対する考え方
11	第4章 各施策における個別課題と取組	16	心電図電送システムを導入することは非常にいい試みだが、いかにせん導入コスト、維持コスト、通信費等について大きな経費を要するため、慎重に記載した方がよい。	救急搬送体制の整備の「取り組むべき施策」で「例えば」という記述を行い、事例の1つである旨を明示的に記載しました。
12	第4章 各施策における個別課題と取組	16 29	人材育成については、医師だけではなくて、例えば、救急救命士に心電図を判読するような技量を身につけてもらえるよう資格を取ってもらうとか、心不全療養指導士を増やすとか、コメディカルの中で、今後重要になってくる人たちの育成も大事になってくる。	救急搬送体制の整備の「取り組むべき施策」で救急救命士の資質向上について記載しています。また、リハビリテーション等の取組の充実に係る「取り組むべき施策」でリハビリテーション等の専門職の育成促進について記載しました。
13	第4章 各施策における個別課題と取組	40	今回、厚労省の循環器病対策推進基本計画に沿った形で、小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策について記載いただいた。特に、小児期における学校健診と成人への移行医療に関しては、基本計画でもこの領域では非常に重要なところなので、ぜひとも配慮いただきたい。 移行医療の支援については、成育基本法に基づく基本方針にも記載されていて、かつ難病法と改正児童福祉法で、これらの対象は小児慢性特定疾病全体である。国の循環器病対策推進基本計画においても「成育基本法と連携した対応」について明記されているので、移行医療の支援について一定記載いただきたい。	小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策「取り組むべき施策」で診療科同士の連携や移行医療を含めた総合的な医療体制の充実に促進する旨を明示しました。

No.	該当箇所	頁	ご意見	ご意見に対する考え方
14	第4章 各施策における個別課題と取組	34	心不全患者を診ていく地域連携というところで、患者が増えて高齢化していく中、再入院を防ぐ手立てがなかなかないが、三重大学の循環器内科を中心に心不全の管理アプリを開発して、患者の自己管理や、かかりつけ医とのデータ共有に用いて心不全の管理をできないかということを考えている。今後、患者支援や管理等について地域医療にもう少しデジタル活用を進めるといった方向性を記載してはどうか。	社会連携に基づく循環器病対策・循環器病患者支援の「取り組むべき施策」で三重大学が開発した心不全患者の健康管理を行うアプリを参考とし、スマートフォンを活用して心不全患者が自己の健康管理を行い、早期の医療機関受診につなげる取組を進めるなど、ICTの利活用により患者支援や地域連携におけるデジタル化を進める旨を記載しました。
15	第4章 各施策における個別課題と取組	29	心不全に関しては、外来の心リハが重要である。外来リハを増進することで健康寿命をもっと延伸できないかと思う。また、コメディカルの活用を通じて、もっと地域で心不全患者や高齢者等のバックアップをして健康寿命の延伸を目指せるようにしていけばいいと思う。	リハビリテーション等の取組の充実「取り組むべき施策」で各病期に対応したリハビリテーションの展開に加え、リハビリテーション等の専門職の育成促進を記載しています。
16	第5章 計画の進捗管理	44 ～ 49	ロジックモデルについて、心臓と脳で進み方とか考え方に多少のスピード感の違いはある。心臓の方では積み上げなければならないデータが多くある。	脳と心臓のそれぞれの状況をふまえてロジックモデルを策定しました。

第2回社会連携・リハビリ部会

No.	該当箇所	頁	ご意見	ご意見に対する考え方
17	第4章 各施策における個別課題と取組	10	最近一般の人にもフレイルという言葉が浸透している。そのことを踏まえ、フレイルをまとめて少し記載いただいた方が分かりやすいと思う。	循環器病の予防や正しい知識の普及啓発の「現状・課題」にフレイルの予防等が重要である旨を記載しました。
18	第4章 各施策における個別課題と取組	29	中小の病院は医療ソーシャルワーカーを確保するのに苦労している。社会福祉士の確保や育成ということをどこかに挙げていただけるとありがたい。	リハビリテーション等の取組の充実「取り組むべき施策」にリハビリテーション等の専門職の育成について記載しました。
19	第4章 各施策における個別課題と取組	33	介護保険の開始前の年齢においては連携がなかなか取りづらいという問題がある。新たに国で制度化された重層的支援体制整備事業があると思うので、一定それに関する記述が必要である。また、重層的支援にはソーシャルワーカー等の養成が必要なので県から支援いただきたい。	社会連携に基づく循環器病対策・循環器病患者支援の「取り組むべき施策」に患者やその家族が抱える複合的な課題に対応する重層的支援体制整備事業について体制整備に取り組む市町を支援する旨を記載しました。
20	第4章 各施策における個別課題と取組	41	自治体にある既存のデータベースの有効活用をもう少し進めたらいいと思う。	循環器病の診療情報の収集・提供体制の整備の「取り組むべき施策」にNDBデータやDPCデータ等を活用する旨を記載しました。
21	第5章 計画の進捗管理	44 ～ 49	通所リハや訪問リハに関する数値を記載いただければと思う。	ロジックモデルに通所リハビリや訪問リハビリのサービスを提供する事業所数やサービスの利用者数等を記載しました。

第2回三重県循環器病対策推進協議会

No.	該当箇所	頁	ご意見	ご意見に対する考え方
22	第4章 各施策における個別課題と取組	13	患者としては、体系的に内容を伝えていただくことが大事だと考える。	循環器病の予防や正しい知識の普及啓発の「取り組むべき施策」に多様な広報媒体を用いた体系的な啓発について検討する旨を記載しています。
23	第4章 各施策における個別課題と取組	16	ICTの活用については、例えば他県でやっているものでいいものを取り入れるなどして、医療をバックアップして欲しい。	救急搬送体制の整備の「取り組むべき施策」に他自治体におけるICTの活用事例などをふまえる旨を記載しました。
24	第4章 各施策における個別課題と取組	16	指導救命士のレベルアップや救急と医療機関との連携が最も重要である。	救急搬送体制の整備の「取り組むべき施策」で救急救命士の資質向上について記載しています。
25	第4章 各施策における個別課題と取組	33	地域包括ケアシステムは、高齢者だけではなく、障がいがある方や子どもなどにもニーズがある中で、少し変わっていかねばならないということを県全体で認識する必要があるのではないか。一方で、なんでも地域包括ケアシステムと言われると対応しきれない部分が出てくることも念頭に置く必要がある。	社会連携に基づく循環器病対策・循環器病患者支援の「取り組むべき施策」で地域包括ケアシステムの充実を図ることに加え、既存の相談支援等の取組を生かしつつ、属性や世代を問わない包括的な相談支援体制の整備に取り組む市町を支援する旨を記載しました。
26	第4章 各施策における個別課題と取組	33	急性期は充実しているが、病院を出てからどこに相談すればいいのかが分からないケースがある。	社会連携に基づく循環器病対策・循環器病患者支援「取り組むべき施策」に属性や世代を問わない包括的な相談体制の整備に取り組む市町を支援する旨を記載しています。
27	第4章 各施策における個別課題と取組	34	患者が再入院しなくてすむよう、慢性心不全認定看護師が在宅などの部分で役割を果たしている。	社会連携に基づく循環器病対策・循環器病患者支援の「取り組むべき施策」に脳卒中や心不全に関する認定看護師の役割について記載しました。

第3回脳血管疾患対策部会

No.	該当箇所	頁	ご意見	ご意見に対する考え方
28	第4章 各施策における個別課題と取組	39	病院として両立支援の取組を進めていくことを記載いただきたい。	治療と仕事の両立支援・就労支援の「取り組むべき施策」のうち、「脳卒中、虚血性心疾患を含め、幅広い病状を呈する循環器病患者が社会に受け入れられ、自らの疾患と付き合いながら就業できるよう、支援に取り組みます。」という記述の関連する機関に医療機関を追加しました。

第3回心疾患対策部会

No.	該当箇所	頁	ご意見	ご意見に対する考え方
28	第4章 各施策における個別課題と取組	40	学校健診について、学校心臓健診検討委員会がありまして、具体的にデジタル化も含めて議論させていただきましたので、デジタル化について記述の追加をお願いしたい。	小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策の「取り組むべき施策」に学校健康診断での心電図の電子化を検討する旨を追記を行いました。

委員から個別にいただいたご意見

No.	該当箇所	頁	ご意見	ご意見に対する考え方
29	第4章 各施策における個別課題と取組	39	部会の議論や各委員の意見を伺うに、今後、就労支援や治療と仕事の両立が重要になるということ、地域包括ケアの充実が重要であると認識されていることが理解できる。就労支援も広い意味では地域包括ケアに含まれると思うが、職域版の地域包括ケア、連携パスを構築することが、治療と仕事の両立支援につながると思われる。厚生労働省では、治療と仕事の両立支援に関して「両立支援コーディネーターによる、患者へのトライアングル型サポート体制の充実」を対応の一例にあげている。両立支援コーディネーターは、医療ソーシャルワーカーや理学療法士、作業療法士、また看護師など、各種専門職がその担い手となると考えられるが、こうした他職種連携による職域版地域包括ケアシステムのものが運営されていけば、それがすなわち、就労支援・治療と仕事の両立支援になっていくのではないかとと思われる。	治療と仕事の両立支援・就労支援の「現状と課題」に仕事を理由として治療機会を逃さないよう、また治療が仕事の継続を妨げないよう、適切な治療を受けながら就労が続けられることが重要である旨を記載しました。また、「取り組むべき施策」に両立支援コーディネーターの養成や主治医、企業、両立支援コーディネーターによるトライアングル型のサポートを促進する旨を記載しました。
30	第4章 各施策における個別課題と取組	42	再生医療の導入に関して記述いただきたい。	循環器病に係る研究成果の活用の「取り組むべき施策」に再生医療などの先進的な技術に基づく新たな治療法について、データやノウハウの導入など必要な対応を検討する旨を記載しました。